

NIPPO  
執行役員北信越支店長

よねおか たくひこ  
米岡 拓彦氏

支店長



## 風通しの良い環境を醸成

開口一番、「確かなものづくりで地域の皆さんに信頼される支店を目指す」と力強く語った。故郷、石川県を担当エリアに抱える北信越支店には、3年ぶり4度目の着任。足かけ11年になる。「従業員

全員が伸び伸びと働ける環境を整えるのが私の仕事。皆の話を良く聞いて、風通しの良い環境を醸成する。道路業界のリーダーカンパニーという誇りと自負を植え付ける事も大切だと認識している」

業を強化する。案件は大都市圏に比べると少ないが、受注確保に向け当社の組織力と、技術力を持って対応する」  
「当社は支店担当エリア4県（新潟、富山、石川、長野）をカバーする工事拠点と合材工場を持つ。施工営業に力を入れ、工場、物流施設などをはじめさまざまな分野にチャレンジしていきたい」

関東第一支店に7年、中部支店に6年在籍。多くのプレーヤーがひしめく大都市圏は競争も激しいが仕事量も多い。比して北信越は、一件一件を丁寧に受注しないと計画は達成できない。

前職は四国支店長。高知競輪場などの大型工事を数多く手掛けた。牧野富太郎博士の故郷、高知県佐川町にある「まきのさんの道の駅・佐川」の舗装にも関わった。

「北陸地方整備局、東日本・中日本高速道路に注力するのはもちろん、民間工事の営

（4月1日就任。金沢大学工学部土木工学科卒。石川県七尾市出身、58歳）



## 支店長席



### 顧客からより信頼される支店に

「北陸は生まれ育ったふるさとで、北信越支店は3年ぶり4回目の勤務となる。確かなものづくりを通じて、思い出と縁が深いこの地域の皆さまに信頼される支店をNIPPPO執行役員  
北信越支店長

米岡 拓彦氏  
（よねおか たかひこ）

目指す」と抱負を語る。工事と製品の「出来栄」と品質を追求する」ととで顧客満足度を高める考えだ。

受注面では引き続き官公庁に重きを置き、現在施工中の北陸地方整備局やNEXCOの案件の上積みを狙う。民間についても「営業を強化する必要がある」と力を込める。

製品であるアスファルト合材は、原材料である原油製品が高騰し、販売価格と乖離（かいり）している。厳しい局面が続くものの、全社的な値上げと合わせて「適正価格での販売に理解を求めている」と言う。

2017年から働き方改革に取

り組んでいるため、有給休暇を含む休日の確保は着実に進んでいる。一方、時間外労働の上限規制への対応では、「改善の余地が残されている」とし、社内報『働き方改革ニュース』に掲載している生産性向上などの好事例を参考にしている。

「財産は人材」と明言する吉川芳和社長の意をくみ、「従業員一人ひとりが伸び伸びと業務にまい進できる環境を整えたい」と自身の職責の一端を明かす。

1987年3月金沢大工学部土木工学科卒業、同年4月日本舗道（現NIPPPO）入社。執行役員四国支店長などを歴任し、4月1日から現職。石川県出身、58歳。隣県である富山県出身の落語家・立川志の輔師匠を敬愛する。